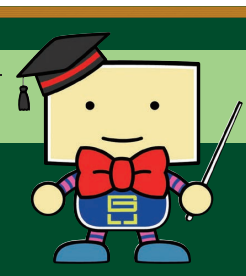
高校生版
令和3（2021）年号
HYOGO PREFECTURAL ASSEMBLY NEWS

# ひょうご県議会だより

県議会広報PRキャラクター
兵議（ひょうぎ） 博士（はかせ）



## 「高校生が政治に関心を持つのは当り前のこと」

### 兵庫県議会 議長・副議長にインタビュー！

令和3年8月27日、県立長田高校有志が取材のため県議会を訪れ、藤本百男議長（以下、議長）、谷口俊介副議長（以下、副議長）へインタビューを行いました。

第124代
議長
藤本 百男

第129代
副議長
谷口 俊介

## 議員になったきっかけ

### まず、お二人はどの様なきっかけで議員になったのでしょうか？

本日は取材よろしくお願いします。
まず、お二人はどの様なきっかけで議員になったのでしょうか？

**議長**：私、もとは教師なんです。そこで、地元の方から県議会選挙に出てほしいという声をいただきました。最初はお断りをしたんですが、何度も話しているうちに地元のために頑張ってみようかという気持ちになりました。

**副議長**：国会議員の秘書をしていた時に、神戸市議会議員や地元後援会の皆さんから、神戸市西区に応援できる議員がいないので、ぜひ選挙に出てほしいと要請をいただきました。悩んだ末、地元に恩返しができるのであればと思い選挙に出ました。

### なるほど。政治家になる前から政治に関心はありましたか？

**議長**：教師として、27～8年間社会科を教えていた。そのなかで、生徒たちと一緒に、地域の課題は何かを考え、地域が歩んできた歴史を調べたり、これからの未来を構想してみたりしていた。例えば、ここに公園があったらいいのにとか、このため池は大丈夫かな、とか。だから、特に政治に関心があったわけではないけれども、教師時代も今も考えていることは一緒かな。

**副議長**：私は政治には全く関心はなかったです。元々ホテルで働いていましたが、両親が知り合いだった市会議員から、国会議員の秘書を急遽募集していることを知り、自分がたまたま誘われる形でこの（政治の）世界に入ったので、全くそれまでは政治のことはわからなかったですね。秘書になってから勉強していました。

## 議員の仕事について

### 議員は、一体どのような仕事をしているのですか？

**議長**：よく教科書には、「年４回の定例会と委員会があります。」とあって、すると、小学生に「４日だけ仕事したらいいんか。」と言われたり（笑）。実際は、定例会は合わせて、年８０日ぐらいあるし、常任委員会は定例会中の開催に加え、閉会中は毎月あります。他にも様々な委員会があるし、調査活動としてあちこちに出向いたりもする。土日も地元の体育祭などに行って、いろんな人と意見交換する。電話での相談も朝晩かかってきます。議員にこれだけという仕事はなくて、**２４時間３６５日**働いております。

**副議長：議会活動以外**にも、後援会活動もあります。
我々議員の活動を応援していただいている後援会の方と、地域の課題を意見交換しています。

### 忙しそうですね。議員として最も大切な活動は何だと思いますか？

**議長：まずは県民の声や思い**をしっかりと聞くことが大事。議員になろうと思ったきっかけはみんなのために働こうと思ったからであり、そのためにはみんなが何に困っているのかを知らないといけない。そのうえで県の担当部局とも相談しながら課題解決に向けて取り組んでいる。

### 議員の仕事の魅力は何ですか？

**議長：県民の願い**が実現できたときが最大の喜びであり魅力である。

**副議長：私も同じ**です。
有権者から喜んでもらえたときが一番嬉しくやりがいを感じます。

## 高校生の政治参加について

### 高校生のうちから政治に関心を持つべき理由は何だと思いますか？

**議長**：政治は命の問題から、日常の問題まで**全てに関係している。**私たちの身の回りの道路や歩道のタイル１枚も全て税金でできているでしょ？ 私たちの命と暮らしを守るために作られている。
だからね、やっぱり関心を持つのが当たり前じゃないですか。自分たちの身の回りの環境に関わって、変えていきたいと思うかどうかだと思います。

**副議長：国民主権とは、**国民一人一人が日本をどういう国にしていくのかを考える事です。
それを決めているのが政治なので、やはり選挙に必ず行ってほしいですね。

**議長**：特に、皆さんが選挙権を受けて最初の選挙。わからなかったら白票でもいいから、投票することが大事。
皆で誘い合って、とにかく行ってみてください。（文：長田高校2年　浦井 智裕）

**～本日は貴重なお話をいただき、ありがとうございました。～**

※県立長田高校生と県議会議員とのインタビューは、感染予防対策を徹底した上で行いました。

# 「「兵庫の教育をよくしたい」という気持ちをもって。」

## 文教常任委員会 委員長・副委員長にインタビュー!

委員長
中田 英一

副委員長
竹尾 ともえ

文教常任委員会、それは県議会に提出される教育関係の議案を、専門的に審査する組織である。今回は、その常任委員長である中田英一議員、そして副委員長である竹尾ともえ議員に話を聞いた。

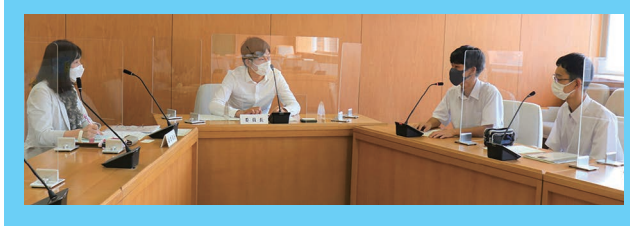
### インタビューの一部を掲載

**Q 高校生**　常任委員会はどの様なことをしていますか?

**A 委員長**　議案を審査するのが議会の役割です。常任委員会では、その議案を専門分野毎に分担してより深く審査しています。 文教常任委員会では 「教育のこと」 を専門に審査しています。

**Q 高校生**　文教常任委員会が直接、生徒とつながることはありますか?

**A 副委員長**　生徒と直接話をする機会はないですが、文教常任委員会の委員も教育委員会の職員も「教育をよくしたい!」という思いでしっかりと話をしますので生徒の皆さんにしっかりとつながっていると思います。



**Q 高校生**　教育委員会と文教常任委員会はどういう役割を果たしていますか?

**A 委員長**　知事と議会は「二元代表制」として車の両輪に例えられますが、知事からの提案について、議会から意見や要望などを出して、最終的に提案が成立すれば実行される仕組みです。その教育版が教育委員会と文教常任委員会です。
県民の代表である議会は同じく県民の代表である、知事に対して県民の声を反映し、より良いものを作る役割があります。

**Q 高校生**　教育分野について関心のあるテーマはなんですか?

**A 委員長**　僕は、未来ある生徒が将来の夢を見据えて、自分の特性が最大限に発揮できるような 、 そんなカリキュラムや専門分野を選択できる制度をもっと広げてほしいと思っています。

**A 副委員長**　私は、特別支援教育、特にインクルーシブ教育に興味があります。いま兵庫県では看護師や補助員の加えて配置される数が少ないという現状があります。国の規則によるものではまだまだ不十分、県から解決していきたいです。

**Q 高校生**　文教常任委員としてやりがいを感じられることはなんですか?

**A 副委員長**　今はコロナ禍で視察がむずかしい状況ですが、普段なら学校現場に足を運び、様々な声を聞き、その意見を教育委員会への申し入れや質問という形であげていけるのは大きなやりがいです。

#### 常任委員会とは?

常任委員会は、本会議に提案された議案などを専門的に詳しく審査するための機関で、年間を通じて継続的に行われています。総務・健康福祉・産業労働・農政環境・建設 ・ 文教 ・ 警察の７つの委員会が設置されており、議員はいずれか一つの委員会に属しています。

このほかにも色んな質問をしたが、 共通して感じたのは教育の当事者である僕たち「生徒の声」の重要性だ。「普段なら各学校を回って、先生や生徒の皆さんに生の声をいただく機会があるのですが、 今はこの新型コロナウイルス感染予防の観点からそれが出来ていない状態です。」との言葉にもあるように、現在、常任委員会の活動が教育現場においてどのように作用し、どのような結果をもたらしているか、そのフィードバックが十分でない状態だ。県政が僕たちの学校生活より密着した良いものであるにはその「フィードバック」を積極的に行う必要がある。

常任委員会に所属している議員、そしてその執行機関である教育委員会の職員は「兵庫の教育をよりよくしたい。」 という気持ちで取り組んでいるということが今回のインタビューから伝わってきた。だから是非、普段みんなが感じているいろんな疑問や問題意識を「声」にしてほしい。その届けた「声」を求めている人がいる。そしてそれらを何らかの形で実現させようと奔走する人がいる、そんなことが感じられた良いインタビューだったと思う。

（文：長田高校２年　大髙 音太朗）

# 「若者は政治に無関心というけれど」

### 「若者は政治に関心を持たなくてはならない。」

確かに政治が大切なのはわかる。でも、毎日部活や勉強など自分の周りのことで精一杯で、政治のことなんて考える余裕はない。私たちは良くも悪くも恵まれすぎていて、歴史の授業で習ったような悪い政治家のせいで国民が困窮してご飯が食べられない、学校に行けない、というようなこともない。現状に満足しているわけではないが、重い腰を上げてまで「変えたい!」と思うこともない。正直私にとって政治なんて他人事で、LINE の返信のほうが断然優先度は高い。

しかし、「自分の周りのことで精一杯。」これは実は高校生に限らず、私たちの親の世代、祖父母の世代でも、大体の人がそうであるかも知れない。でも、身の周りのことに精一杯な私達だからこそ、あげられる声があるのではないだろうか。例えば、コロナ禍で学校行事や部活が思うようにできず辛いことや感染拡大するなか満員電車に乗って登校しなければいけない不安などは、私たちが誰よりも一番「変えたい!」と思っていることだろう。

自分の考えなんて、政治として扱うには規模が小さすぎる、私はそう考えていた。しかし議長によると、「地元選出の議員さんに電話かけて、高校の授業のこととか、なんでも気軽に相談したら良いよ。」とのこと。政治、特に県議会は思っていたより身近だった。

自分一人の声で何かを変えるのは難しいから、どんどん人を巻き込んで議論して、世論を作っていくことが必要だ。しかし私は、友人と政治の話をすることには少し障壁があるように感じる。そもそも政治には難しくて複雑なイメージがある。たいして知識のない自分が政治のことに意見してもいいのか。間違ったことを言っていたら恥ずかしい。しかし、政治に間違いなどないのだ。社会保障費や国の借金返済のための正しい消費税増税だ、と賢い人に言われても、欲しい物の値段が高くなる増税はやっぱり嫌だ。また、政治の話をすると知識をひけらかしている「意識高い系」と言われる風潮がまだあるように思う。議長が「自分たちが出した税金の使い道を政治が決めているのだから、政治に関心を持つのは当たり前。」と言っていたが、当たり前に、世間話レベルで、友人と政治の話をできるような社会にしていきたい。

### では、政治に関心を持つには何から始めればよいのだろう。

まずは 18 歳からの選挙権。「自分だけ行くんじゃなくて、みんなで誘い合ってとりあえず投票に行ってほしい」「どの政治家が良いか分からへんなら白紙で出してもええやない。」と議長は言っていた。もちろん選挙権がなくても、政治に関わる方法はある。パブリックコメントやさわやか提案箱という制度では PC やスマホから気軽に意見を寄せられるし、請願を提出すると直接議会で扱ってもらえる。また SNS で自分の考えを発信することもできる。自分の意見を持つことが難しいのなら、YouTube で政治家の討論を見たり、気になる政治家の SNS をフォローしてみるのも良い。この県議会だより制作にあたって非常に強く感じたのは、政治は私たちの声を求めていて、考えていたよりも身近な存在であるということだ。 難しいものとして敬遠せず、友人と誘い合って、できることからはじめてみたい。

（文：長田高校２年　大當 日和 ）

議会のことを知りたくなったら・・・

**県議会ホームページ**
県議会の取組や定例会の会期・審議日程などを配信します。
Facebookも随時更新しています。

編集・発行　兵庫県議会　〒650-8567 神戸市中央区下山手通5丁目10番1号 TEL.078-341-7711（代表）FAX.078-362-9031